

2024年度理事長所信

一般社団法人中津川青年会議所
第70代理事長 可児将太郎

For The Future

～今こそ未来への一步を踏み出そう！～

～はじめに～

中津川青年会議所は1955年11月に21名の青年が「明るい豊かな社会」の実現を目指し、全国で76番目、岐阜県内3番目の青年会議所として設立されました。戦後の混乱がまだ続く最中、ひたすらに中津川の明るい未来を夢を見、誰かを想い、誰かの幸せを心から望み、情熱を持って尽力してこられました。そして、その熱く燃えた情熱の炎は、移り変わる時代背景の中で、数多くの苦難を乗り越えながら衰えることなく、先輩諸兄姉から引き継がれ、本年で70年の節目を迎えます。この炎の勢いをすぼめることなく、先輩諸兄姉から引き継いだ強い想いと私たちの創造性を掛け合わせ、更なる強い炎へと昇華させ、次代へと引き継いでまいります。

近年、世界での経済や社会における変化のスピードは目まぐるしく、今でさえも古く思えるほどにそのスピード感は増しているように感じます。以前は「大が小を飲む」といった表現がよく使われていましたが、現在は「早く変化したものが勝者となる」といった表現に変わってきていることから分かるように、変化を嫌い、新たな未来を創造できなければ世界から取り残されてしまいます。日本はかつて世界に先駆け先進的なモノや価値を生み出し世界をリードしてきました。しかし現在では、安定志向が強く、変化に対してネガティブという日本の特性が、グローバル化やDX化など様々な面で世界から遅れを取り、経済や社会の成長が鈍化しています。人や組織は現状に満足し、先に進むことをやめた瞬間から退化が始まります。私たちは青年会議所に属し、「明るい豊かな社会」の実現という不変的な理念のもと活動しています。「明るい豊かな社会」の実現には、現状維持ではなく、変化を生み出し、進化し続けることこそが重要です。未来の中津川は私たちの手にかかっています。だからこそ、変化を恐れずに共に力を合わせ立ち向かいましょう。

～未来を創り出すリーダーの育成～

現在の日本はバブル経済の崩壊や長期の経済停滞が続いたことで成長が鈍化しており、

また2020年に新型コロナウイルスのパンデミックが世界中で発生したことにより、不安定な経済状況が続いています。現状、国民一人当たりのGDP（国内総生産）は、中国に抜かれつつも世界第3位を保ってはいますが、かつては世界1位であった国際経営開発研究所の国際競争力ランキングでは、人口減少や高齢化、経済、社会での過度な規制などにより、2023年では世界第35位と年々順位を落としています。その一つの要因として、古き良き伝統や文化を尊重し古い考えに固着しすぎたが故に、柔軟な姿勢で新しいアイデアや技術、文化を受け入れることができず、新しい価値を創造できていないことで国際社会からも遅れを取り、先人たちが築き上げてきた豊かな国は、今少しづつ崩れ始めています。

私たちが住むこの中津川市にも、リニア中央新幹線の開通に伴いインバウンドや多様な価値観を持ったひとが訪れ、国際的なまちとなりうる可能性も秘めています。そして、私たちには会社やまちのリーダーとしての担いがあります。だからこそ、日本人が持ち合わせる「和」の心と国際的感覚や視野を掛け合わせ、異なる文化や技術との融合を通じ、日本独自の新たな価値を生み出すことで、国際的な舞台での競争力を高めることが重要です。変化の激しい時代においても柔軟に対応し、将来に渡り持続可能な会社やまちを創り出せる新たなリーダーへと共に成長していきましょう。

～70周年を迎え未来の中津川に向けて～

中津川青年会議所は、本年創立70周年という節目の年を迎えます。戦後10年のまだ混乱を極めていた日本経済を若い力で立て直そうと立ち上げてから、これまで「明るい豊かな社会」を願い、活動をされてこられた歴史に対し、先輩諸兄姉に感謝の意を示すことが必要です。常日頃、青年会議所に対して多大なるご支援を賜っております、行政、関係諸団体、各地青年会議所、中津川市民の皆様感謝を示し、今後も中津川青年会議所がこのまちに必要な団体として、皆様に再認識していただくと共に、未来の中津川を創り出す機会としたいと考えます。

中津川が持続的に発展を遂げるためには、移り変わる時代背景に対応し、進化し続けることが求められます。そして、持続的発展のためには次代を担う人財を創り出すことが必要だと考えます。現在の日本の青少年を見てみると諸外国と比べ、自分の将来に明るい希望を持つことができていないという結果が出ています。だからこそ、今後の未来の中津川を担う青少年が、広い視野を養う中で自身が持つ無限の可能性に気づき、大きな夢を描くことが重要です。そして、彼らが自身の夢に向かい進みだし、成長した先には明るい豊かなまち中津川になると信じます。

～活気で満ち溢れる「おいでん祭」を目指して～

「おいでん祭」も今年で38回目を迎えることとなります。ふるさとの祭りとしてこれまでの伝統を重んじつつも、先輩諸兄姉が情熱を注ぎ、多くの人を巻き込み進化させてき

たからこそ、今日まで「おいでん祭」が続いてきたと考えます。しかしながら、「おいでん祭」を行うにあたり、現状各種プログラムの担い手や参加者の不足、また、当日の運営を担う私たち青年会議所のメンバーの減少など、様々な問題を抱えているのも事実です。この様な状況下であっても、私たちは現状で満足することなく、「おいでん祭」をより活気で満ち溢れる祭りへと進化をさせていくことが必要であると考えます。それは、誰のための「おいでん祭」なのか、何のための「おいでん祭」なのかを考えてみると自ずと答えが出てくると思います。「おいでん祭」は多くの可能性を秘めています。今だからこそ、私たち一人ひとりが準備や運営に対して、当事者意識を持ち行動すると共に、多くの人を巻き込み「おいでん祭」に携わる人を増やししながら、「おいでん祭」の可能性を最大化させていきましょう。

～持続的に発展する組織の確立～

青年会議所は青年経済人としての礎を築ける唯一無二の団体です。私も含め各々入会した動機は違えど、青年会議所が掲げる三信条をバランスよく積み重ねていくことで、青年経済人としての成長を遂げることができると考えます。私たちは青年経済人として未来を見据え行動することが重要である中、少子高齢化、労働人口の減少といった社会的背景やワークライフバランスなど考え方が多様化してきていることで、目先の問題や課題にばかり没頭してしまっていると感じます。それにより特定の誰かへの負荷が高まり、個人だけでなく組織としてのバランスも崩れつつあると考えます。その時々により、目先の問題や課題を懸命に解決していくことは必要ではありますが、個人や組織が常に忙しさに追われ、将来の展望を見失うことがないようにすることが大切です。未来の中津川を創造していくことは私たちの使命であり、私たちだからこそ、経済、社会の両面からこの中津川を持続的に成長可能なまちへと昇華できます。そのためにも、一人ひとりが知恵を出し合い、効率化を図り生産性を高める中で、誰もが活躍できる強い組織を創ることが必要です。そうすることで、青年会議所の意義も高まり魅力溢れる組織になると信じます。

～おわりに～

「人は誰かのために生きてこそ、人生の価値がある」

(アルベルト・アインシュタイン)

私たちは、自らの希望を達成することで充実感を得て、幸せを感じることができます。その時、周囲の人が幸せではない中、自分だけが幸せでも、私たちは同じように幸せを感じることができるのでしょうか。誰かを想い、誰かのために行動してこそ、本当の幸せがあるのではないのでしょうか。私たちは普段から多くの人と関わりながら生活しています。もしその時、誰かが悩み、苦しんでいるのであれば、見て見ぬふりをするのではなく助けの手を差し伸べてあげてください。きっとその先には、誰かの幸せに繋がり、自身の人生をも豊かにします。一人ひとりの思いやりと行動が幸せの輪を広げ、中津川の明るい希望とな

ります。今こそ私たちがその最初の一步を踏み出しましょう。その先にある未来のために。

<運営方針>

- ・報本反始の心で取り組む70周年
- ・JAYCEEとして責任と思いやりを持った行動
- ・生産性の向上を重視した委員会運営
- ・未来を見据え、進化し続けるLOM運営

<運動方針>

- ・創造性豊かなリーダーの育成
- ・無限の可能性を引き出す青少年育成